



## 第 395 号

令和8年7月9日発行

- 巻頭言
- 第77回全日中総会報告
- 地区だより・論文
- 文芸・さりながら
- 地区別教育経営研究会計画
- 大会案内・事務局日誌



閉会を宣言する  
道中前田会長

第77回全日本中学校長会総会



## 「未来を切り拓く力を子供たちに」

北海道中学校長会 副会長 高橋正幸

近年、「予測のつかない時代」と言われる状況を、私たちはこれまで以上に強く実感しています。激甚化する気象災害や野生動物の生息域の変化、さらには生成AIをはじめとする情報技術の急速な進歩など、社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。その変化のスピードに、人間の適応が追いついていないと感じることも少なくありません。だからこそ、次々と現れる課題に対して、自ら考え、試行錯誤を重ねながら解決していく力、すなわち「生き抜く力」が求められているのではないのでしょうか。

そして、その力は知識だけではなく、体験や挑戦の積み重ねによって育まれるものだと感じています。

私自身、この力の礎となったのは、中学校時代の技術科の授業です。当時学んだ木材加工、金属加工、機械、電気、栽培などの学習は、ものづくりが好きだった私を夢中にさせました。自分の手を動かしながら試行錯誤し、一つの作品を完成させる喜びは格別で、その経験が後に「技術・家庭科」の教員を志す原点となりました。

その学びの価値を実感した出来事があります。十数年前、自宅のドラム式洗濯乾燥機が故障し、排水できなくなりました。買い替えも考えましたが、「まずは原因を

調べてみよう」と考え、自分で分解してみることにしました。すると、排水栓を引っ張るためのワイヤーが切れていることが分かりました。そこでホームセンターで代用部品を探し修理したところ、洗濯機は見事によみがえりました。その感動は今でも忘れられません。

現代の技術は高度化し、多くの製品や情報技術がブラックボックス化しています。しかし、仕組みを理解しようと考え、身近な手段を活用して工夫しながら課題解決に挑む経験は、大きな自信につながります。そして、その積み重ねこそが、変化の激しい時代を生き抜く力になると確信しています。

私たちが子供たちに伝えるべきものは、単なる知識ではなく、「まずは自分でやってみよう」と挑戦する主体性と、自らの力で解決する喜びです。その喜びを未来の子供たちへつないでいくことが、予測困難な時代を切り拓く確かな土台づくりにつながると考えています。将来、子供たちが「あの中学校生活があったから今の自分がある」と振り返ってくれるなら、教師としてこれ以上の喜びはありません。本会としても、全道の中学校教育の充実と発展に向け、皆様とともに力を尽くしてまいります。

## 第77回 全日本中学校 校長会総会

第77回全日本中学校長会総会が、昨年度までの2日日程から1日日程に変更となり、東京・国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に、186人の代議員とオブザーバー・役員等が参加した。会長挨拶に続き、文部科学大臣等の祝辞が述べられ、議事では下記の案件が審議、承認された。午後からは文部科学省初等中等教育局各課等からの説明に加え、次期学習指導要領の方向性についての講演が行われた。また、翌22日の午前には皇居特別参観も催された。

[5月21日(木)]

### ○議事

- 1 令和7年度会務報告
- 2 令和7年度決算の件
- 3 令和8年度役員の内(会長及び道中関係分)
  - 会長 東京都昭島市立清泉中学校 佐藤 晴美
  - 副会長 江別市立中央中学校 前田 真志
  - 理事 札幌市立羊丘中学校 高橋 正幸
  - 理事 札幌市立発寒中学校 田丸 明史
  - 理事 稚内市立稚内東中学校 大谷 智昭
  - 会計監査 函館市立桔梗中学校 白川 卓
- 4 令和8年度活動方針の件
- 5 令和8年度予算の件
- 6 第78回全日中研究協議会開催地の件
- 7 第78回全日中研究協議会主題・分科会研究題の件
  - ・中学校教育80年記念 第78回全日本中学校長会東京大会
  - 《研究協議会主題》
  - 「『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育」
  - 《分科会研究題(担当地区)》
- (1) 「カリキュラム・マネジメント」の推進(関東甲信越)
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現(中国)
- (3) よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実(北海道)

- (4) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実(近畿)
- (5) 一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実(九州)
- (6) 自己指導能力を育成する生徒指導の充実(四国)
- (7) 「令和の日本型教育」を担う教師の育成(東海北陸)
- (8) 学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」の実現と「働き方改革」の更なる加速化(東北)
- 8 宣言・決議

### ○連絡

第77回全日本中学校長会研究協議会長野大会について

### ○文部科学省説明等

- ・教師を取り巻く環境整備について(初等中等教育局財務課)
- ・いじめ・不登校支援対応について(初等中等教育局児童生徒課)
- ・部活動の地域展開等について(スポーツ庁地域スポーツ課)

○講演 「生成AI時代、GIGAスクール時代の学習指導要領改訂」  
講師 初等中等教育局教育課程課長 武藤 久慶氏

[5月22日(金)]

### ○皇居特別参観

## 宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係に満ちた持続可能な社会の創り手を育成するという使命を担っている。

私たちは今、グローバル化の進展や急速な技術革新、生成AIをはじめとするICTの発展、さらには自然災害や新たな感染症への対応など、社会が大きく揺れ動く時代を生きている。

このような変化の中で、中学校教育が直面する課題に的確に対応するとともに、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、全日中新教育ビジョンに基づく「学校からの教育改革」を自らの責務として推進し、教育の真価を示していかなければならない。

全日本中学校長会は、教育改革の推進及び当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、国民の負託に応えることをここに宣言する。

## 決 議

第77回総会に当たり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一、全日中新教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、教職員定数改善などの教育条件の抜本的改善と教職員が専門性を発揮できる環境整備を要請し、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期する。
- 一、東日本大震災をはじめ、能登半島地震など近年多発する自然災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全国各地区・各学校における防災教育・安全教育の充実を期する。

令和8年5月21日 第77回全日本中学校長会総会

第77回  
全日本中学校  
校長会総会

令和8年5月21日

# 会長就任挨拶

全日本中学校長会 会長 佐藤晴美氏



全日本中学校長会 第49代会長として御承認いただきました、東京都昭島市立清泉中学校 校長の佐藤 晴美でございます。新役員を代表いたしまして、一言御挨拶申し上げます。

本日、皆様の御承認をいただき、この大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄に存じます。同時に、全国の公立中学校のリーダーを支える本会会長としての任務の重さに、身の引き締まる思いでございます。何分、微力ではございますが、全国の公立中学校長からなる本会の目的を達成するため、皆様のお力をお借りし、その声に真摯に耳を傾けながら、教育者としての情熱をもって、会長としての責務を果たしてまいりる所存でございます。

この二年間、本会のために心血を注いでいただきました青海正会長をはじめ、副会長、理事、幹事の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、私が校長に昇任し、本総会に初めてオブザーバーとして参加した時のことです。当時の会長であられた山本 聖志（やまもと せいし）先生の御挨拶に、校長職の責任の重さを痛感するとともに、清々しい感動を覚えたことを今でも鮮明に記憶しております。山本先生は、昭和五十二年に制定された「全日本中学校長会綱領」を引用され、「我々は、校長の使命に徹し、結束して中学校教育の振興に努め、もって国民の信託に応える」と力強く語られました。私はこの時抱いた感動を、まさに「初心忘れるべからず」、常に胸に刻み、誠心誠意、取り組んでまいります。

ここで、全日本中学校長会として、組織と機能を生かして取り組んでまいりたい三つの重点事項について述べさせていただきます。

1点目は、学校教育及び教職の魅力の発信です。

令和三年の「令和の日本型学校教育」の構築を目指した答申において、学校が子供の全人的な発達を支える「居場所」としての役割を担っている重要性が改めて示されました。現在進行中の次期学習指導要領の議論においても、良き伝統の継承と、新たな時代に即した教育課程の構築が求められています。私たちは、先達が築き上げてきた教育に誇りを持ち、変化が激しく、複雑で、先行き不透明なVUCAの時代を、むしろ「変革のチャンス」と捉えなければなりません。教師自らが「主体的・対話的で深い学び」を体現するロールモデル

となり、誇りをもって学び続ける姿を支えること、そして、大胆に改革を進める学校の姿を積極的に発信することで、教職を目指す若者や社会全体に対し、教育の価値を広く伝えてまいります。

2点目は、国の動向に対する迅速かつ的確な対応です。

少子高齢化、激甚化する自然災害、そして生成AIをはじめとする急激な技術革新など、社会の先行きは不透明さを増しています。国が学校に求める役割も、全国学力・学習状況調査のCBT化、GIGAスクール構想、不登校・いじめ対策、そしてその基盤となる「働き方改革」など、極めて多岐にわたります。いかなる状況下にあっても、私たちは「子供の学びを支え抜く」という普遍の意志を持ち、教育の在り方を不断に追求しなければなりません。本会は現場の視点から、中学校の現状を踏まえた提言を国に対して明確に行い、「よりよい教育」の実現に向け、牽引してまいります。

3点目は、「全日中新教育ビジョン」の確実な推進です。

本会が平成二十一年に公表した「学校からの教育改革」は、校長が自ら改革の主体となることを宣言した画期的な指針です。昨年度の調査では、92.9%の校長が本ビジョンを肯定的に捉えており、その有効性が証明されました。次期学習指導要領への移行期にある今こそ、このビジョンを堅持し、具現化を加速させるべき時です。生徒の「未来を創る力」に関わる六つの提言、および学校の「力を育てる場」に関わる四つの提言を各校の指針とし、全国の都道府県中学校長会と緊密に連携しながら、その確実な推進を図ってまいります。

結びに、来年度、中学校教育は八十年目という大きな節目を迎えます。予測困難な時代という言葉、私たちは「未来を切り拓く希望の言葉」として受け止めたいと考えます。歴代会長や諸先輩方が築かれた強固な礎の上に、各都道府県校長会における実践や研究の成果、さらには寄せられる御意見や御提案を貴重な財産として受け止め、全日中の在り方についても柔軟に考えてまいります。

その歩みが、全国の中学校の教育活動に寄与し、生徒たちの輝かしい未来に繋がることを信じ、皆様と共に歩んでいくことをここにお誓い申し上げ、就任の挨拶といたします。

第77回  
全日本中学校長会総会

講演

## 「生成AI時代、GIGAスクール時代の学習指導要領改訂」

文部科学省初等中等教育局教育課程課長

武藤 久慶 氏



紙面の都合上、講演の趣旨を損なわないよう配慮し、内容を抜粋・編集して掲載しています。

次期学習指導要領のキーワードは、御承知のとおり、「自らの人生を舵取りする力」「民主的で持続可能な社会の創り手の育成」の2つです。ポイントは「創り手」という言葉にあります。単なる社会の構成員ではなく、主体的な「創り手」を育てていきたいという点、そして昨今さまざまな出来事が起きる中で「やはり民主主義は大事だ」という強い気持ちをここに込めています。そのために「好きを育み、得意を伸ばす」こと、さらには「当事者意識」をもって自分の意見を形成し、しっかりとした「対話と合意」ができる子供たちを育てていきたい。そのような方針を打ち出し、現在、最終的な議論を重ねているところです。

それでは、「なぜ今、このような話になっているのか」という背景について、まず解説いたします。

### 1 人口減少・少子高齢化

2050年には日本の人口が1億人を割り込み、5割の現役世代で、残りの5割である高齢者や若年者を守り、支えていかなければなりません。これはかなり厳しい社会状況です。本当に「一人一人の子供たちが可能性を開花させなければ、社会が立ち行かなくなる」ほどの厳しい未来が想定されているという事実を共有しておきたいと思います。

### 2 グローバル化

2040年、次期指導要領のもとで育った子供たちが高校を卒業し始める頃には、人口比で外国人が10%を超えるという推計が出ています。つまり、先生方が今まさに教壇で育てておられる子供たちが社会に出る頃には、現在とは比べものにならないほど多様な社会になっているということです。現行の学習指導要領でも「多様な他者との協働」が掲げられていますが、そのトレンドは今後さらに加速していくと御理解ください。

### 3 多様性&包摂性の重視

多様性の議論は、一般的な話にとどまらず、経済やビジネスの現場でも極めて重要になっています。こうした状況を踏まえ、社会政策においても「ダイバーシティ」や「インクルージョン」は非常に重視されています。SDGsの4番目の目標には「質の高い教育をみんなに」とあります。本気で「本当に質の高い教育を、本当にみんなに提供しよう」と考えたら、精神論だけで戦えるものではありません。学校現場にしっかりとリソースを投入する必要があります。

### 4 デジタル化

「Society 5.0」が目指すのは、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させ、人間中心の社会をつくっていくことです。このような時代において、私たち教育関係者が取り組むべきタスクは2つあります。「良き創り手を育てる」というハイエンドなアプローチと、「賢い使い手を育てる」という「for Everybody」のアプローチです。これらを両輪で進めていく必要があります。こうした時代の流れがあるからこそ、大学入学共通テストに「情報I」が導入され、高校1年生から「情報I」が必修化されたのです。こうした全体の流れの中で、「では、次の中学校の技術・家庭科はどうするのか」という議論が生じるのは自然なことです。技術・家庭科については、そろそろ「技術」と「家庭」を切り離し、それぞれを発展させていこうということで、現在は「情報・技術科」といった形にする方向で検討を進めているところです。

### 5 変化の激化、不確実性の高まり

私たち教育関係者が考えている「人間の価値」というものは、労働経済学的な評価だけで測れるものではありませんし、測るべきでもありません。では、「人間に一体何が残るのか」という問いが生まれます。私たちは今、この点をベースにカリキ

ユラムの検討を行っています。私たち教育関係者がこれまでずっと大切にしてきた、豊かな人間性、思考力、コミュニケーションこそが、次の時代にも一番大事なことでないかと考えています。

## 6 人生100年時代

学校教育において「生涯にわたって学び続けていくための資質・能力、態度、習慣、スキル」を育むことが、決定的に重要になってくるということです。より現場の目線に落とし込んで言えば、「あえて先生が手取り足取り教えなくても、子供自身が自立的に学ぶ経験を意図的にデザインできているか」「子供それぞれの認知特性に応じた、自分なりの賢い学び方を獲得させるためのアプローチができているか」という点が問われています。そして、先生方が現場でそうした実践を行えるよう、国や教育委員会が支援体制を敷いているかどうか、大きな課題となっているのです。

ここまでは背景のお話でした。ここからは「これからの教育課程で重視したいこと」についてお話しします。

### 1 多様性を包摂したい

私たちはこれまで、集団の「真ん中の層」に向けて授業の進度を設定し、教材を提供してきました。そして、そこから外れる層に対しても、頑張っただけ個別ケアを行おうと、授業技術を磨いてきたわけです。しかし、現在の多様性を前に、そうした「一斉指導+ $\alpha$ 」のやり方は限界を迎えていると言わざるを得ません。私は一斉指導が不要だと言っているわけではありません。むしろ集団で学ぶ場としてはこれからも極めて大事です。ただ、「工夫のない一斉指導」を1日6コマ、年間200日、判で押したように繰り返すスタイルは、もはや教育的な妥当性が下がっているのではないかと、いうことです。一斉指導自体の時間は非常にコンパクトに凝縮し、そこに様々な「個別最適な学び方」を意図的に組み合わせるような方法論が必要です。

「多様性の包摂」を進める上で、デジタルは非常に相性が良いツールです。学校生活では「覚えなければならぬこと」が山ほどあります。「覚え方」については、最終的に定着するのであれば、

一人一人違っていても良いはずで、そう割り切ることができれば、インターネットやYouTube、学習アプリは非常にパワフルな自習ツールになります。さらに、学力形成をサポートする優れた学習アプリを導入する自治体や学校も増えています。

合理的配慮の普遍化と教育課程の柔軟化、こうした支援は誰かを特別扱いして個別に「合理的配慮」として提供するのではなく、当たり前のように全児童生徒に提供されていることが極めて重要です。これが日常化していれば、個別に求められる合理的配慮の提供件数は大きく減らすことができ、結果として教員の働き方改革にもつながると言われています。

### 2 自分なりの賢い学び方を獲得させたい

一生のうちに何度もキャリアを変えたり学び直したりすることが想定されるこれからの時代、自分で学ぶ自信がないことは本人や家族にとって大きなリスクになります。だからこそ、初等中等教育の中で、子供たちに賢い学び方を指導し、自ら考えて勝ち取っていけるようにすることが重要です。現行の学習指導要領でも、「新たな知識が既得の知識と関連付けられ、概念が深く理解されて他の場面でも活用できる『確かな知識』の習得」を掲げていますが、次期指導要領ではこの点をさらに重視します。具体的には、表面的な丸暗記ではなく、意味が理解されて深く腹に落ちる「意味理解」と「概念の獲得」を目指します。「なぜ」や「そもそも」を説明しようとする、複数の知識がつながりやすくなるということは、認知心理学の知見として証明されています。私たちが目指す「深い学び」とは、このように「情報と情報を意味でつなげていくうちに、次の「なぜ」が生まれてくる学び」と言えるのではないのでしょうか。

概念的で本質的な理解を阻害するほどに現在の教育内容が多すぎてオーバーロードになっているとすれば、子供たちも先生方も疲弊してしまいます。そのため、教育内容をしっかりと厳選していく必要があります。教科書をもう少しスリムにし、本質的な部分に絞り込んでいく。次期学習指導要領のキーワードは、「本質的な理解の獲得に重点」

「知識の統合的理解」「思考力・判断力・表現力の総合的発揮」です。

中学校や高校の現場からは「授業改善を行うと入試に対応できなくなる」という声が今でも上がりますが、本質的な意味理解ができ、知識同士がつながるような深い学びを行っていけば、それは結果として入試にも最も強い力を発揮します。このことは、これまでの学術的な研究の知見から声を大にして主張したい事実です。

### 3 学ぶ意味を意識してほしい

数学の学力テストでトップ10に入る国々を比較した際、日本の弱点が見えてきました。「先生は日常生活の問題を数学でどう解決できるか考えさせましたか」という質問に対し、日本のスコアは下から2番目です。数学の成績自体はトップクラスであるにもかかわらず、その学びが実生活や将来に結び付いていません。理科についても同様で、「理科を勉強すると日常生活に役に立つ」と答えた割合は下から4番目、「理科を使う職業につきたい」にいたっては最下位です。これは非常にもったいないことです。子供たちの中で、学んでいる内容と生活や社会、世界の動き、あるいは自分の将来へのつながりが見えないまま、「入試があるから」という理由だけで勉強しているとすれば、大きな損失です。学びを「自分ごと」にするための仕掛けを、次期指導要領の中でつくっていきたいとも考えています。

### 4 民主主義の担い手を育てたい

デジタル化の恩恵がある一方で、負の側面も顕著になっています。現在、中学生の約93%がスマートフォンを所持していますが、そのうち約半数の子供たちは「自分のスマホに流れてくる情報が、アルゴリズムによって自分向けに最適化されていること」を知りません。いわゆる「フィルターバブル」や「エコーチェンバー」と呼ばれる、自分が好む偏った情報だけに囲まれる不健全な環境に、子供たちが無自覚に絡め取られています。これからは私たち一人一人が自律的に行わなければならない時代です。そのため、情報の真偽を確かめる「ファクトチェック」のスキルを、次期指導要領

の「情報」に関する内容の中にしっかりと位置付けていきます。子供たちが授業の中で日常的に実践し、トレーニングする活動を増やしていきます。

### 5 自分の考えをもって欲しい・やりたいことを突き詰めて欲しい

自分の考えをもつ、あるいはやりたいことを突き詰める、ここが最重要であり、学びの原動力です。「これをやりたい」というものがある子供は強い。それは今までも強かった。でもこれからはそれがないと、それこそ厳しいという状況が想定されており、それだけ大きな社会構造の変化がAIで起きていることを私たちが共有し、“では、どうしていくのか”を議論したいと思っております。

本日の最後に、先生方の前で、改めて申し上げておきたいことがあります。この間、約1年半にわたって中教審で議論を重ねてまいりましたが、今、まさに終盤中の終盤です。おそらく6月か7月頃までに、それぞれの教科の最終的なレポートを出します。その後、秋くらいに「審議のまとめ」を出し、パブリックコメントを受け付けたり、関係団体からのヒアリングを行ったりします。もちろん、ここには全日中も入っています。そうしたステップを経て、おそらく12月に答申して、翌年の3月に新しい学習指導要領を改訂するという、本当に最終段階にあります。しかしその中でまだしっかりと結論が出ていないのが、「それぞれの教科の内容の精選」です。この「精選」というのは、相当な議論があるわけです。教科担当の方々のある種の抵抗とぶつかり合って、本当に大変な交渉が進んでいます。ぜひ、全日中の先生方の御指導と御支援もいただきながら、これをなんとか成し遂げたい。そして、そこで削り出して生まれてきた「余白」を、先生方がそれぞれのカリキュラム・マネジメントに生かしたり、子供たちの多様性を受け止められたりするようなカリキュラムにしていきたいと考えています。もちろん、環境や人員といった条件整備についても、全力で頑張りたいと思っております。

様々なデータや具体例などを織り交ぜた講演内容の全体についてはHPに掲載してあります。

## 保護者や地域社会の負託と信頼に応え、「一人一人の校長の力を結集する」後志小中学校長会

後志・古平中 津田 和翁

56人で構成する後志小中学校長会は、子供一人一人がふるさとに誇りを持ち、社会で生きる実践的な力を育成する学校の在り方を究明し、後志教育の一層の充実・発展に寄与する。

### 【活動の方針】

- 1 愛情と信頼に基づく、活力ある学校経営の充実
- 2 「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善
- 3 児童生徒理解の充実と、時代の変化に即した生徒指導や個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進
- 4 会員の共同研究の推進と研究成果の交流による校長自らの研さん
- 5 教職員の一層の資質能力の総合的な向上
- 6 教育諸条件の把握とその整備・充実
- 7 働き方改革と業務負担の軽減の実現を含む教職員の処遇の改善
- 8 令和8年度北海道学校保健・安全研究大会に向け、関係機関と密に連携した準備と運営
- 9 令和10年度北海道中学校長会研究大会後志大会に向け、道中事務局と連携した準備推進

## 「自走」と「共走」で拓く、小樽の未来

小樽市・銭函中 青柳 信正

小樽市中学校長会は、市の方針「知・徳・体のバランスのとれた人材の育成」に則り、小樽の未来を託すことのできる人材育成を目指す教育推進のため、研究と実践を積み重ね、着実に成果を上げてきた。これまでの成果を踏まえ、「小樽市立学校」の一枚をあずかる校長として、その使命と重責を担って「自走」と共に、市教委との連携や横のつながりを大切に「共走」を基本方針とし、自校や市内の共通課題解決に向けた取組を推進する。

### 【活動の具体】

- 1 学校運営組織の機能化
  - ・指導的立場としての教務主任の機能化
- 2 小中一貫教育
  - ・分掌内への小中一貫教育担当の位置づけ
  - ・中学校区内の担当者会議・全職員での部会実施
- 3 人材育成
  - ・主幹会のバックアップと主幹間の定期的な交流
  - ・教頭・主幹・主任等の他校体験・見学と、長期的展望に立った小樽市の管理職候補の育成
- 4 業務改善
  - ・校内組織の機能化をベースにした業務の推進

## 地 区 だ よ り

### 信頼される中学校教育の創造を目指し、「知恵を結集し、さらに、前へ」

旭川市・北門中 坂田 幸親

旭川市中学校長会は、大熊 修一会長のもと、新会員7人（転入・新採用）を迎え、26人の会員で新年度の活動を開始した。「知恵を結集し、さらに、前へ」を基本姿勢と定め、旭川市教育大綱の基本方針「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」の具現化のため、校長会組織の一層の活性化を図っている。教育改革の動向を見極めながら、会員相互の真摯な研さんと連携を図り、次のような運営方針を掲げ、中学校教育の充実・発展に努めている。

### 【運営方針】

- 1 中学校長の職能の向上と旭川市の中学校教育の振興を図る。
- 2 旭川市教育委員会を始め、北海道中学校長会、関係機関・団体等と緊密に連携を深め、教育諸課題への適切な対応に努める。
- 3 校長としての学校経営力の向上を図り、市民の負託に応える中学校教育の創造に努める。
- 4 定年年齢の引き上げ及び役職定年制の導入、後継者育成等の喫緊の課題への対応に努める。

### 和心一統の精神を堅持し管内教育の充実と発展を

留萌・初山別中 滝本 秀明

留萌管内小中学校長会は、今年度新たに3人（新採用2人、転入1人）の会員を迎え、8市町村・計25人（小学校14人、中学校9人、小中併置2人）で組織されている。4月の総会・研修会において秋葉 良之会長（留萌・留萌小）が選出され、以下の方針等を確認し、本年度の各業務を推進している。

### 【運営の方針】

- 1 校長の使命と責任を自覚し、識見を高める研修の充実と情報の共有等を図る。（研修・情報共有）
- 2 会員相互の信頼関係を深め、組織強化と活動の充実、先を見通した最善の対応を図る。（協働）
- 3 教育関係機関・団体及び地域社会との連携を強化し、諸問題の解決を図る。（外部との連携）

諸先輩方が「和心一統」の指標のもと、管内教育の充実・振興に寄与してこられた歩みを基盤とし、学校が変わり続けることを恐れず、新たな取組にもチャレンジしていきたい。

また、具体的な根拠に基づいて考え、議論し、結論を導きながら協働して実践する組織づくりを進める。校長会の活性化と会員一人一人の職能向上を図り、管内教育の更なる充実と発展にこれまで以上に寄与していく所存である。

## 接続可能な学校経営への改善・充実 を目指し、自走と共創を図る組織へ

渡島・浜分中 小林 和規

渡島小中学校長会は、五十嵐 義幸新会長のもと、採用校長6人、転入1人を迎え、小学校34人・中学校18人・小中学校併置校1人・義務教育学校1人の53人で活動を開始した。校長としての識見や指導力を高め、学校教育の課題解決を図るために改善・充実を図る取組を推進していく。

### 【運営の方針】（要約）

- 1 研修活動の充実
- 2 後継者育成に向けた取組の強化
- 3 持続可能な組織及び活動の改善
- 4 「学校における働き方改革」の一層の推進

### 【活動の重点】（要約）

- ① 新しい時代を担う校長会の学校経営の充実
- ② 迅速な情報交流や協働研修の充実
- ③ 次世代を支える人材育成と後継者育成
- ④ 渡島の教育全体の動向を生かす調査と情報発信
- ⑤ 教育環境・諸条件の整備と福利厚生の実施
- ⑥ 校長相互の連携を図り、組織の強化と充実
- ⑦ 教育関係機関・団体及び地域との連携強化

## 連携と協調のもと、しなやかに自走 していく「チーム函中」

函館市・巴中 小田桐 智

函館市中学校長会は、6人の新会員を迎え、会員数19人で今年度の活動をスタートした。毎月、定期的に行う研修会では、連携と協調のもと、教育情勢の共有や各学校の取組を交流し、意見を出し合って解決策を模索している。ウェルビーイングな職場環境の構築に向けてもリーダーシップを発揮し、学校現場から教育改革を推進していく。函館市内全ての生徒の幸福な未来と、学校教育の充実・発展のため、「チーム函中」が一丸となって尽力する。

### 【基本方針】（要約）

- 校長会組織を機能させた経営課題の解決
- 「信頼される学校づくり」の創造
- 関係機関との連携、教育条件の整備充実

### 【活動の重点】（要約）

- 関係機関等とのネットワーク・CSを活用した教育課題・経営課題の解決
- 市教委、市小学校長会等との連携の充実・深化
- 実践交流による校長のマネジメント力の向上
- 管理職後継者や教職員の育成および北海道教育大学函館校における教員育成に対する積極的な支援
- 道中函館大会の円滑な運営と研究内容の充実

## 地 区 だ よ り

### 空知全体を一つの学びのキャンパスに ～空知が一体となった教育の実現を目指して～

空知・北竜中 三好 考央

空知校長会は、松野 岳彦会長のもと、24市町・85人の会員で構成している。令和8年度は空知の教育の充実・発展に向け、明確な学校経営ビジョンに基づくリーダーシップを発揮し、基本主題「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す学校教育の推進」の解明を目指す。

各学校においては「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントの推進を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、子供たちの健やかな成長に向けた学校改善に全力で邁進する。

### 【活動の方針】

- 1 空知の校長としての使命を自覚し、常に研さんに励み、学校の自主性・自律性を発揮して、学校経営の充実・発展に努める。
- 2 校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、組織の在り方を再検討する中で、組織運営の効率や業務削減、諸問題の解決に努める。
- 3 空知教育局や各市町教育委員会及び道小・道中などの教育関係機関・団体と緊密に連携し、教育課題の解決にあたり、地域・保護者から信頼される学校づくりに努める。

### ウェルビーイングの向上を図る学校 経営の追求

帯広市・帯広第八中 村上 達也

帯広市中学校長会は、今野 典之会長（南町中学校）をはじめ、14人の会員で組織されている。帯広市校長会の基本方針「校長職 学び専門性を高め合う校長会」の具現化を目指し、七つの校長像の実現に向けた不断の努力を重ねながら、学校教育を推進し、市民の負託に応える活動を展開している。今年度は、校長相互の協力と信頼関係を一層深め、帯広市教育委員会をはじめ関係諸団体と緊密に連携し、子供、教職員、家庭・地域のウェルビーイングの向上を図る学校経営を追求し、学校教育が直面する課題の解決と教育活動の充実に努めていく。

### 【活動の重点】（要約）

- 1 中学校長会の組織を強化し、活動の充実に努める。  
（校種間連携の充実等）
- 2 教育課題の解決を図り、学校経営の改善に努める。（CSを活用した社会に開かれた教育課程の実現等）
- 3 教育課程の整備・充実と地域に根ざした学校づくりに努める。（いじめ・不登校の問題への適切な対応と生徒指導体制の強化等）
- 4 円滑な教育活動推進のための教育条件の整備・充実に努める。（特別支援教育の充実等）

# 生徒が安心して成長できる学校づくり ～SWPBSを柱とした本校の試み～

中札内村立中札内中学校 柴山 敬

## 1 SWPBS (スクールワイドPBS) とは

本校でスクールワイドPBS (Positive Behavior Support) を本格的に導入したのは、令和7年度からである。この取組は、「一部の困っている生徒」だけでなく「全ての生徒」が安心して学習に集中できる環境を学校全体で作る仕組みのことである。その特徴は、問題が起きてから対応する「対症療法的」な指導ではなく、あらかじめ「望ましい行動」を具体的に教えて(マトリックスで示して)、それができたら褒めて(認めて)定着させる「予防的」な関わりにある。

昨年度の取組では、教職員の意識に大きな変化が見られた。校内アンケートの結果、教職員の約94%が「生徒のモデル(手本)となる意識」をもって活動できたと回答している。また、生徒が望ましい行動をした際に渡す「サンクスカード」などの活動により、生徒たちが互いに認め合う温かい雰囲気生まれ、本校が目指す生徒像である「自分自身で考え、望ましい行動を選択し、一歩踏み出す」という行動を引き出すことにつながっている。

## 2 SWPBSの導入のきっかけ

本校では2年前からこの取組に着手しているが、その背景には従来の生徒指導の限界があった。特定の期間だけ注意を促すような「キャンペーン的な指導」では、その場限りの効果に終わりやすく、教職員の多くが徹底させることの難しさを感じていた。

導入を後押ししたのは、本校のスクールカウンセラーが「応用行動分析学(ABA)」の専門家であったことである。ABAとは、行動を個人の性格のせいによらず、「その行動をした結果、本人にどんな良いことがあったのか(メリット)」を科学的に分析するものである。専門家の視点を取り入れることで、教職員が主観的な思い込みではなく、客観的なデータに基づいて「なぜこの子はこう動くのか」を判断することができ、適切な支援を行えるようになると考えた。

## 3 生徒の現状と目指す姿

令和7年度後期の学校評価結果では、本校生徒の現状が数字ではっきりと表れている。「学校での成長実感」や「仲間との協力」については3.0点満点中2.3点と高く、学校生活への安心感が育っていることがわかった。一方で、「学習への知的好奇心(もっと学びたいという意欲)」は1.9点、

「心身の自己管理能力(ストレスや体調の把握)」は1.8点と、肯定的なライン(2.0点)を下回った。

この結果から、生徒たちは落ち着いて過ごしているものの、「言われてからやる」という受動的な姿勢が見られ、個人や学年によって、生徒が自信のなさや自己肯定感の低さを抱えていることがわかった。SWPBSの取組は、こうした生徒に対し、自ら望ましい行動を選び、成功体験を積み重ねさせることで、「自分ならできる」という自己効力感と、低迷している自己肯定感を高めることをねらいとしており、本校が目指している生徒像である「自分自身で考え、望ましい行動を選択し、一歩踏み出す」姿の実現を図ることができると考えている。

## 4 学校評価の結果を踏まえた経営方針の設定

学校評価での課題は、今年度の学校経営の「ランドデザイン」の各項目(心の窓・育ちの窓・学びの窓・ふれあいの窓)と深く関わっている。

①「学習への意欲の低さ(1.9点)」は「学びの窓」での「自ら選び、決めて進める学び」の課題

②「自己管理能力の低下(1.8点)」は「心の窓」での「自己効力感や自己信頼」や、「育ちの窓」での「自律の習慣化」の課題

これらを踏まえた今年度の経営方針は、「安心を土台に生徒の前向きな変化を『みんなで』支え育む学校」の構築である。単なるイベントとしてのSWPBSではなく、授業や日常のあらゆる場面で肯定的な声かけを行う「当たり前の技術」として全教職員が習得することを目指している。

## 5 SWPBSの取組を取り入れた学校経営の展望

今後の展望として、まず着手したいことは小学校との連携(小中連携)の強化である。小学校段階から「望ましい行動を選び、それをお互いに認め合う文化」を共有することで、義務教育9年間を通じて生徒が自分に自信をもち続けられる一貫した指導・支援体制の構築を目指したい。

また、そのために本村教育研究所などの関係機関と連携し、情報共有や実践交流などを通じて、本村教職員のPBSに関する専門性や実践力を高めることのほか、保護者や地域の方々と共に「小さく挑み 小さくできて 大きく育つ」を合い言葉に、教育の輪を広げることに力を注いでいきたい。

## 文芸

## 「言葉」と共に生きる

札幌市立札幌中学校 小 熊 剛 彰

この立場になると、多くの場面で「挨拶」を求められたり（この文章もそうですが）、様々な原稿の執筆を頼まれる。そのような際、過去の自分がどのような文章を書いていたのかを振り返ることがある。そこで改めてこれまで自分が書いてきた文章を読み返すと、伝えたいことの中に自分の中の「不易」があることに気付いた。

それは「言葉」の大切さである。

「人が言葉を作るのか、言葉が人を作るのか」というフレーズを、これまでよく授業の中で使ってきた。「言葉」とは、人間が発明したものであると思うのだが、同時に、その「言葉」によって作られる人の姿がある。どのような「言葉」をもち、使うのかで、その人の世界が見えてくるのである。

私が中学1年生のときの生徒会誌の、とある先生の言葉である。「この世で一番大事なものは、自分の健康です。その次は家族です。どちらもなくしたときにわかります。」その生徒会誌が行方知らずの今、表記は自信ないが、内容は間違いない。初めて読んだ時に強烈に心に残り、40年以上経った今でも時々思い出すことがある。

心に残る「言葉」は挙げるときりがないが、良くも悪くも、自分はこうした言葉と共に生きてきたし、これからも生きていくのだと感じている。

逆の例もある。教員として働きだした頃、同じ教員として近隣の学校に勤めていた小学校の同級生と偶然再会した。その時彼女に、「私が辛いときに、小熊君に優しい言葉をかけてもらって救われた」と言われ、ドキッとした。全く覚えていなかったからである。これはたまたまいい話のようだが、当然、反対に誰かを傷つける言葉も言っていたはずだ。「私の『言葉』と共に生きている人」がいるのだ、ということを実感した瞬間であった。

連日のようにSNS等による「言葉」のトラブルを伝えるニュースが報じられ、未成年の使用を禁じる国も出始めてきている。それが日本にも影響を及ぼすのか。そもそもこうなった要因はどこにあるのだろうか…。

思うに、「他人の『言葉』が自分の中で生き続ける」ことや、「自分の『言葉』が他人の中で生き続ける」ことに、どれだけ意識を払っているかということと無関係ではないのではないだろうか。

## 文芸

## 奥尻町（奥尻島）の良さを噛みしめて

奥尻町立奥尻中学校 佐 藤 智 也

奥尻町は、日本海の波が穏やかに寄せる孤高の島である。地名はアイヌ語の「イクシユン・シリ（その向こうの島）」の転訛に由来している。青苗遺跡の発掘調査から『大型ヒスイ勾玉』が発掘されたことから、約8,000年前の縄文の人々が青苗砂丘に住居を構え、ニホンアシカを狩り、エゾアワビを採る暮らしを紡いだその歴史は、風雪に耐え、時を超えて語り継がれている。

島の山々は神威山を中心に緑深く、海岸線には鍋釣岩などの奇岩がいくつも点在し、太陽の光を受けて海を翡翠色に透らせる「奥尻ブルー」が地元の方々や観光で訪れる方々の心を奪う。その海にはウニやアワビ、イカといった漁の恵みが満ち、今も島人の営みを支えている。漁火の下、静かな泊地で網を整える地元漁師の方々の仕事ぶりには、長い歴史に磨かれた知恵と温かさが宿っている。また四季を通じて、美しい海と森、そして歴史的遺産が交わるこの島は訪れる者の心に静かな感動を残す。潮騒の中に立ち、鍋釣岩の影を見上げれば、奥尻はまるで都会の喧騒を忘れさせる詩のような場所。昔からの海風と同じ風が、今日も島民の営みと自然が静かに結びつけていると感じている。

1993年の北海道南西沖地震で島は壊滅的な被害を受けたが、町民たちは希望を失わず、全国から集った支援と共に5年という短い年月で完全復興を遂げた。この光景は、荒波に耐え、再び立ち上がる奥尻の心の象徴であり、島の過去と未来をつなぐ証でもあると感じた。奥尻町は大自然に恵まれ、大きな災害を経験した島の方々は、心温かく私たち教師や生徒にとってもいい環境である。役場も教育委員会も近い存在である。また、釣りや山菜採りなど自然を満喫できる。残念な事は約10年で約400人の人口減が見られた。高齢化に伴う人口減もあるが、若い世代の永住者が少なく、航空自衛隊のAI化による隊員の縮小化など、様々な要因はある。

現在、旧庁舎跡地にホテル建設を計画し、着工した。道路の拡張工事も進められ、観光業に力を入れていく方針であるが、観光へ力を入れていく前に島民の暮らしが豊かに幸せになれるよう、島内での自給自足を完結できたらと考えていた。米や野菜、牛肉、日本酒、ワインと地産地消の要素はたくさんある。近い未来そんな町になったらいいなと思う。



3月まで小学校の校長を務め、この4月から2年ぶりに中学校の現場へと戻ってきた。小学校での2年間、私は毎朝、欠かさず校門に立ち続けてきた。

元気な挨拶を響かせる子供もいれば、何とか気力を振り絞って登校してくる子供もいる。朝食を摂れずに来た子供や、夜遅くまでのゲームで睡眠不足の子供など、背景にある生活の実態は実に多様であった。それでも、一步一步学校へ足を運ぶ子供たちの姿に、私はいつも「今日もよく来てくれた」という感謝と敬意の念を抱かずにはいらなかった。

「登校する子供の様子を見れば、その学校の姿が分かる」と言われる。子供にとって、学校に行く楽しみが一つでもあれば、その足取りは自然と軽くなる。

「友達と遊びたい」「給食が楽しみだ」といったささやかな期待でも構わない。そうした素朴な願いこそが、子供を学校へと向かわせる原動力となる。

しかし、登校の喜びが休み時間や給食といった場面だけに留まっていたら、教育の場としていささか寂しい。だからこそ私は、校長として「授業を通して学校をつくる」ことを最優先に掲げ、教職員と共に歩んできた。日々の学習に対し、屈託なく「楽しい」「面白

「元気よく登校。機嫌よく下校」  
～学びの場に「共存の感情」を育む～

室蘭市立港北中学校 西村 雄一

い」と言える子供を育てたい。数学で「昨日とは違う解法を思いついたから、仲間に伝えたい」と目を輝かせ、体育で「新しい技を見てほしい」と誇らしげに語る姿。「明日、これを話したい。みんなに伝えたい」。そんな知的なわくわく感が、翌日の登校への確かな架け橋となる。

こうした学びを支える土壌となるのが「心理的安全性の高い学習集団」の存在である。学級とは「偶然」に出会った子供たちの集まりだが、ただ席を並べるだけでは真の集団とはなり得ない。互いの存在を認め合い、「共に在ること」を慈しむ「共存の感情」が育まれてこそ、意味ある共同体へと昇華する。この偶然の関係を、教師の意図的な働きかけによって「価値ある関係」へと高めていくことこそが、学級経営の本質であり、我々教師の使命ではないだろうか。子供は、学校に己の「居場所」があると感じたとき、安心して登校する。そして、一日の中で一度でも自分が輝く場面に出会えたとき、満足して下校していく。「元気よく登校し、機嫌よく下校する」。この当たり前な日常を、全教職員の力を結集して保障していきたい。



1年前から始めたウォーキングは、当初の「健康のために」という理由から、「ストレス解消のため」にいつしか変わっていった。四季折々、道を歩いていると道路わきの草花の芽生えやお地藏さんへの供え物の変化など車で通った時には気が付かなかったことに気付くことがある。

ある日、周りの木々がまっすぐ空に向かって伸びているのに、斜面から斜め上に向かってよじれて伸びている木が目にとまった。なぜ無理な姿勢で窮屈そうに伸びているのか？このような態勢では、太い幹の重さを支えるために、大きな負荷がかかっているのだろうと気の毒にさえなる。周りの木々と異なり、不自然な方向に伸びている理由はわからないが、必死に生きようと幹を支えているであろう根に思いが及んだ。

樹木の根は、その年齢や育っている環境により大きく異なるが、一般的に「数十メートルの深さにまで伸びている」と推測されているようだ。実際、2013年にオーストラリアでユーカリの根が地下40メートル以上の深さまで伸びていることがわかっている。その深さまで根が伸び、水や養分を吸収し地上部まで送り、大きな幹を支えていることに驚きを禁じ得ない。「目

大切にしたいこと

新ひだか町立三石中学校 高杉 省一

につかないところの根の存在あってこそ、地上部の幹であることに圧倒される気持ちで斜面から伸びる木を改めて眺めた。

車のスピードで通り過ぎると見落としてしまう風景も、ゆっくり歩いていると感じられることがある。「変化の激しい時代」、「予測困難な時代」と言われ久しい。AIをはじめ授業でのICT活用もどんどん進んでいる。スピード感や効率性はもちろん大切であり、情報活用能力の重要性は今後ますます大きくなっていくと思われるが、そればかりではなく、一見非効率で回り道のように思われるプロセスの中からも何か大切なことを見いだせるということもまた事実なのだろう。

集団で学ぶことができ、同年代と触発できうる環境である学校の存在価値は、今後ますます重要となっていくであろうし、そうでなければならぬと思う。生徒たちの喜びあふれる笑顔や心震わせる体験から得る学びの瞬間を見逃さず、励まし、認め、伸ばしていきたい。子供たちのためにも、広い視野と深い洞察力を身に付けていきたいと思う。

# 令和8年度 地区別教育経営研究会計画 (7月9日現在)

道中経営部・道小経営部

地区	開催地	会場	開催日程			担当者		形態	
			月日(曜)	時程		氏名	勤務校		
宗谷	稚内市	稚内総合文化センター	7月29日 (水)	13:15	～	14:00	松本ちひろ	稚内市立 稚内南小学校	小中共催 法制研と併催
旭川中	旭川市	大雪クリスタルホール	8月3日 (月)	10:00	～	11:30	竹内 浩	旭川市立 光陽中学校	中 独
小樽	小樽市	ジブラルタ生命ビル	8月4日 (火)	13:00	～	15:00	渡辺 琢史	小樽市立 塩谷小学校	小中共催
上川	東川町	東川市農村環境改善センター	8月6日 (木)	13:30	～	15:40	石山 輝	東神楽町立 東神楽中学校	小中共催 法制研と併催
後志	倶知安町	ホテル第一会館	8月6日 (木)	10:50	～	11:40	秋元 大	真狩村立 真狩中学校	小中共催 法制研と併催
釧路	釧路市	各所属学校 (オンライン開催)	8月18日 (火)	13:00	～	15:30	秋山 豊	標茶町立 沼幌小学校	小中共催
根室	中標津町	トーヨーグランドホテル	8月21日 (金)	9:00	～	16:00	小森 和則	別海町立 野付中学校	小中共催
渡島 函館	函館市	函館市民会館	8月26日 (水)	14:00	～	16:00	小濱 誠	函館市立 東山小学校	小中共催
胆振	登別市	登別市民会館	8月28日 (金)	10:00	～	16:00	井村 友美	苫小牧市立 泉野小学校	小中共催 法制研と併催
旭川小	旭川市	大雪クリスタルホール	9月1日 (火)	15:00	～	16:10	岡田 亮二	旭川市立 青雲小学校	小 独
留萌	苫前町	苫前地区コミュニティセンター	9月14日 (月)	10:45	～	15:20	酒井 康有	遠別町立 遠別中学校	小中共催
札幌小	札幌市	札幌コンベンションセンター他	10月1日 (木) 10月2日 (金)	/	～	/	船着 千世	札幌市立 白楊小学校	小 独
林ツツ	北見市	端野公民館	10月6日 (火)	13:00	～	14:35	相馬 一之	北見市立 おんねゆ学園	小中共催
石狩	北広島市	石狩教育研修センター	10月6日 (火)	15:00	～	16:00	大淵 徹	新篠津村立 新篠津中学校	小中共催
札幌中	札幌市	札幌市立中島中学校	10月7日 (水)	13:15	～	14:50	細川 直久	札幌市立 宮の丘中学校	中 独
十勝 帯広	幕別町	札内コミュニティプラザ	10月9日 (金)	12:50	～	16:40	長澤 啓二	更別村立 上更別小学校	小中共催 法制研と併催
日高	新ひだか町	新ひだか町公民館	10月27日 (火)	9:00	～	12:00	日比野光洋	新冠町立 新冠中学校	小中共催 法制研と併催
檜山	江差町	檜山地域人材開発センターまなびっく	10月27日 (火)	15:00	～	16:30	桜庭 一宏	上ノ国町立 上ノ国中学校	小中共催 法制研と併催
空知	岩見沢市	各所属学校 (オンライン開催)	10月28日 (水)	13:30	～	16:30	木村 一典	深川市立 一巳小学校	小中共催

## 第67回北海道中学校長会研究大会 函館大会に向けて

- 1 大会主題 「『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育」  
～ 歴史と文化が息づくまち函館から  
ウェルビーイングな未来を拓く子供を育む学校経営の推進 ～
- 2 主催 北海道中学校長会
- 3 主管 函館市中学校長会
- 4 後援 北海道教育委員会 函館市 函館市教育委員会  
函館市PTA連合会 函館市中学校教頭会 公益社団法人日本教育会  
公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部
- 5 期日 令和8年(2026年)9月25日(金)、26日(土)
- 6 会場 函館サーモン・まるなまホール 函館サーモン・まるなまアリーナ
- 7 大会概要 【第1日目】 開会式、全日中会長教育情勢報告、全日中研提案説明、分科会  
【第2日目】 文部科学省講話、記念講演、閉会式
- 8 全日中研長野大会提案説明  
提案者 清水町立御影中学校 宗形 真恵 校長(十勝地区)  
帯広市立翔陽中学校 大泉 昭人 校長(帯広市地区)  
司会 音更町立下音更中学校 佐藤 範彦 校長(十勝地区)  
帯広市立帯広第一中学校 嶋 健 校長(帯広市地区)
- 9 分科会提言

分科会	研究主題	提言者	研究の視点
1	「カリキュラムマネジメント」の推進	【札幌市地区】 門田 章人 校長 (札幌市・篠路西中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の実施状況を評価してその改善を図る検証改善PDCAサイクルの充実</li> <li>・新しい時代に求められる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習基盤となる資質・能力を含む)を育成していくための教科等横断的な教育課程の編成・実施・評価・改善</li> <li>・地域の人的・物的資源を有効活用した「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善</li> </ul>
2	新たな時代に求められる資質・能力の育成と学習評価の充実	【空知地区】 長崎 卓也 校長 (栗山町・栗山中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実</li> <li>・教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫</li> </ul>
3	豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	【釧路地区】 杉山 浩彰 校長 (浜中町・霧多布中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実</li> <li>・自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実</li> <li>・健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実</li> </ul>
4	「令和の日本型教育」を担う教師の育成	【オホーツク地区】 齊藤 孝雄 校長 (北見市・北光中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員としての豊かな人間性や指導力の向上</li> <li>・学校における組織マネジメントや指導の充実を図る研修の推進</li> </ul>
5	学校と地域の連携・協働による「チーム学校」と「働き方改革」の実現	【留萌地区】 小林 剛 校長 (天塩町・天塩中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める学校経営の在り方</li> <li>・チームとしての学校と家庭や地域等との連携・協働体制の在り方</li> <li>・専門スタッフ等との連携による教員の働き方改革の実現</li> </ul>

- 10 文部科学省講話 講師：文部科学省(予定)  
演題：(未定)
- 11 記念講演 講師：中央大学法科大学院教授・弁護士 野村 修也 氏  
演題：「共通価値の創造を目指す」－金融経済教育とボランティア活動の間にあるもの－

## 第77回全日本中学校長会研究協議会長野大会に向けて

- 1 研究協議会主題 『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育
- 2 主催 全日本中学校長会 関東甲信越地区中学校長会
- 3 主管 長野県中学校長会
- 4 後援 文部科学省 長野県 長野県教育委員会 長野市 長野市教育委員会 他
- 5 期日 令和8年(2026年)10月14日(水)、15日(木)、16日(金)
- 6 会場 第1日 ホテルメトロポリタン長野  
第2日 ホクト文化ホール ホテルメトロポリタン長野 シャトレーゼホテル長野  
第3日 ホクト文化ホール
- 7 分科会 【北海道地区担当分】  
第4分科会 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実  
提案者 清水町立御影中学校 宗形 真恵 校長(十勝地区)  
帯広市立翔陽中学校 大泉 昭人 校長(帯広市地区)  
司会 音更町立下音更中学校 佐藤 範彦 校長(十勝地区)  
帯広市立帯広第一中学校 嶋 健 校長(帯広市地区)

### 8 全体日程

10月14日(水)	10月15日(木)	10月16日(金)
12:00 受付 13:00 全日中常任理事会	8:45 受付 9:30 開会式 10:05 文部科学省説明 11:00 全体協議会 11:55 昼食・移動	8:30 受付 9:05 アトラクション 9:40 全体会 10:10 記念講演 11:45 閉会式
13:50 受付 14:15 全日中理事会	13:15 分科会	17:30 受付 18:00 レセプション

- 9 文部科学省説明 講師:未定  
演題:未定
- 10 アトラクション 内容:和太鼓演奏  
出演:真田勝鬨太鼓 代表 海沼 和幸 氏 他8名
- 11 記念講演 演題:「自然から学ぶ」  
講師:赤沼 健至 氏(燕山荘 代表取締役)

## 道中事務局日誌

6月1日～7月22日まで

(予定分含)

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
6	1	月	日本教育公務員弘済会北海道支部 第1回幹事会・第1回運営委員会 (田丸)	13:30	ホテルライフオート札幌
	2	火	第3回小中合同研修会 (五役)	12:30	道小事務所
			日本教育会北海道支部 第1回理事研修会 (前田、田丸)	15:00	かでの2・7
	3	水	公益社団法人北海道交通安全推進委員会 定時社員総会(折田)	14:00	ホテルポールスター札幌
			北海道租税教育推進協議会定期総会 (R7 山田、前田)	14:00	札幌第二合同庁舎
	4	木	道教委中島教育長へ要望書手交 (前田、道小会長、道小事務局長、道公教会長)	10:00	道教委
	5	金	令和8年度帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業運営協議会 Web (田丸)	10:00	自校
			公益財団法人北海道こども・若者応援協会 第1回理事会 (松田)	14:00	第二北海道通信ビル
	6	土	北海道PTA連合会定期総会 (前田、富士原)	13:00	ホテルポールスター札幌
	9	火	道教委中島教育長への挨拶 (前田、川原、青山、伊藤)	13:30	道教委
	13	土	日本教育会北海道支部第47回総会・教育講演会オンライン (前田、高橋)	9:30	自校
	23	火	北海道教育の日 (前田)	15:00	ホテルライフオート札幌
	24	水	第4回事務局研修会 Web (五役、筆頭副会長、各部幹事、専任職員)	10:00	道中事務所、自校
			第43回(公財)日本中学校体育連盟研究大会北海道大会第2回実行委員会 Web (高橋)	14:30	自校
26	金	北海道中学校体育連盟 第2回副会長会 (高橋)	9:30	かでの2・7	
7	1	水	道中研合同研修会分科会 事前打合せ Web 【第1分科会】	10:00	自校
	2	木	道中研合同研修会分科会 事前打合せ Web 【第4分科会】	10:00	自校
	6	月	道中研合同研修会分科会 事前打合せ Web 【第2分科会】	9:00	自校
			道中研合同研修会分科会 事前打合せ Web 【第3分科会】	11:00	
			道中研合同研修会分科会 事前打合せ Web 【第5分科会】	14:00	
	7	火	北海道教育推進会議 (前田)	13:00	道庁別館
	9	木	道中研合同研修会 Web (五役、研修部、道中研(実行委員会、提言者、司会者、記録者、会場委員、運営委員、R9 開催地役員)、専任職員)	13:30	自校
	17	金	第4回小中合同研修会 (五役)	13:00	ホテルライフオート札幌
小中合同事務局研修会・学習会 (五役、幹事、専任職員、道小事務局)			14:10	ホテルライフオート札幌	
22	水	第1回女性活躍・子育て支援推進会議 Web (青山)	10:00	自校	

発行者 会長 前田 真志 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目  
 北海道中学校長会 敷島プラザビル4F  
 TEL011-251-1344 FAX011-251-1302  
 編集者 道中情報部 <http://www.dochu-kochokai.jp/>